日本美術史講義７ｂ

2021年秋学期　火曜4限

担当：伊藤　大輔

第3回

【注意】

このパワーポイントスライドは、本講義の**受講者専用**です。

許可無く、複製・公開すること、あるいは知り合いや友人へ転送することは**禁じます**。個人の学習のみに使用して下さい。

違反しますと、**作品の所有者、写真の撮影者、写真の出版元**等の**権利者**とトラブルになる可能性があります。

トラブルを避け、自分の身を守るという観点から、制限にご協力下さい。

はじめに

これからの講義では、再建前法隆寺の絵画の事例である「玉虫厨子」の壁面に描かれた絵画について学びます。

今回は、「玉虫厨子」の絵画技法と、宮殿部の絵画について学びます。

①再建前法隆寺の絵画

（１）玉虫厨子の絵画技法

檜材の上に、下地として漆を何層も塗り重ねる（黒い地の部分）。

絵画（人物像など）の部分の技法については諸説分かれる。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

①再建前法隆寺の絵画

（１）玉虫厨子の絵画技法

１．油絵（密陀絵）説

荏胡麻の荏油に、乾化剤として密陀僧（みつだそう＝酸化鉛）を加え、色の顔料を混ぜて、油絵具とする。

漆櫃　密陀絵龍虎形の正面部（獅子）
（うるしのひつ　みつだえりゅうこがた）
正倉院・南倉

正倉院宝物　南倉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ（毎日新聞社）
正倉院事務所（宮内庁）、1995, 1996, 1997

①再建前法隆寺の絵画

2．漆絵説

漆に顔料を溶き、色漆として着彩する。

3．併用説

油絵（密陀絵）と漆絵の併用

最終的に紫外線照射による光学的調査で、油絵と朱漆による漆絵の併用が確認された。

顔料の種類は、朱・黄・青緑・黒の四色を使用。

①再建前法隆寺の絵画

（２）截金の使用

請花や反花の花弁には、截金の使用が認められ、我が国最古の截金遺品とされる。

※截金（きりかね）

～金箔を筋状に細く切って装飾する技法

間弁の唐草模様の左先端に金箔が残る

①再建前法隆寺の絵画

図版削除

主弁の先端左右に、菱形の金箔を貼った
痕跡が残る

【「玉虫厨子」の技法的な問題は以上です。】

【次に、「玉虫厨子」の各部に描かれた絵画表現について、順番に概観してゆきます。】

【まず最初に、宮殿部の正面扉に描かれた「天王像」について検討を加えます。】

②玉虫厨子の絵画

（１）宮殿部　正面扉

天王像

足元で邪鬼を踏み、堂内を守る門番としての仁王像

【特徴】法隆寺金堂の四天王像（彫刻）と表現が類似する。

・上半身のみ鎧で下半身は布の裳

・脇を締めた窮屈なポーズ

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

玉虫厨子・正面扉・二天王像

四天王の内・持国天（法隆寺金堂）

小札を重ねた鎧の形式も類似する

日本美術全集2　法隆寺と奈良の寺院（小学館）長岡龍作、2012

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

日本美術全集2　法隆寺と奈良の寺院（小学館）長岡龍作、2012

他の類似点としては……

四天王像の腰甲等に見られる透彫りの金具は、「玉虫厨子」の隅金具と類似している。

四天王の内・持国天の腰甲金具

図版削除

玉虫厨子（複製）の金具

②玉虫厨子の絵画

【正面扉による制作年代の推定】

法隆寺金堂の四天王像の内、広目天の光背には、「山口大口費」（やまぐちのおおぐちのあたい）という作者名が記されている。

この人物は、『日本書紀』白雉元年（650）に「勅を奉じて千仏を刻む」と記された「漢山口直大口」（あやのやまぐちのあたいおおぐち）と同一人物とみられ、類似した表現を取り入れている「玉虫厨子」の制作年代もこの頃と思われる。

四天王像の内、広目天（法隆寺金堂）

日本美術全集2　法隆寺と奈良の寺院（小学館）長岡龍作、2012

【次に、宮殿部の側面扉に描かれた「菩薩像」の表現について見てゆきます。】

②玉虫厨子の絵画

（２）宮殿部　側面扉
　　菩薩像

【特徴】中国・隋代の菩薩像表現
　　と共通する。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

【隋代の表現の特色１】

1．冠は、飾を正面左右に三つつけた「三面宝冠」

2．宝冠の飾は、宝珠形

3．冠にリボン状の冠帯（かんたい）をつける。

※上記三つの条件が揃うのは、隋代になってから

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

【隋代の表現の特色２】

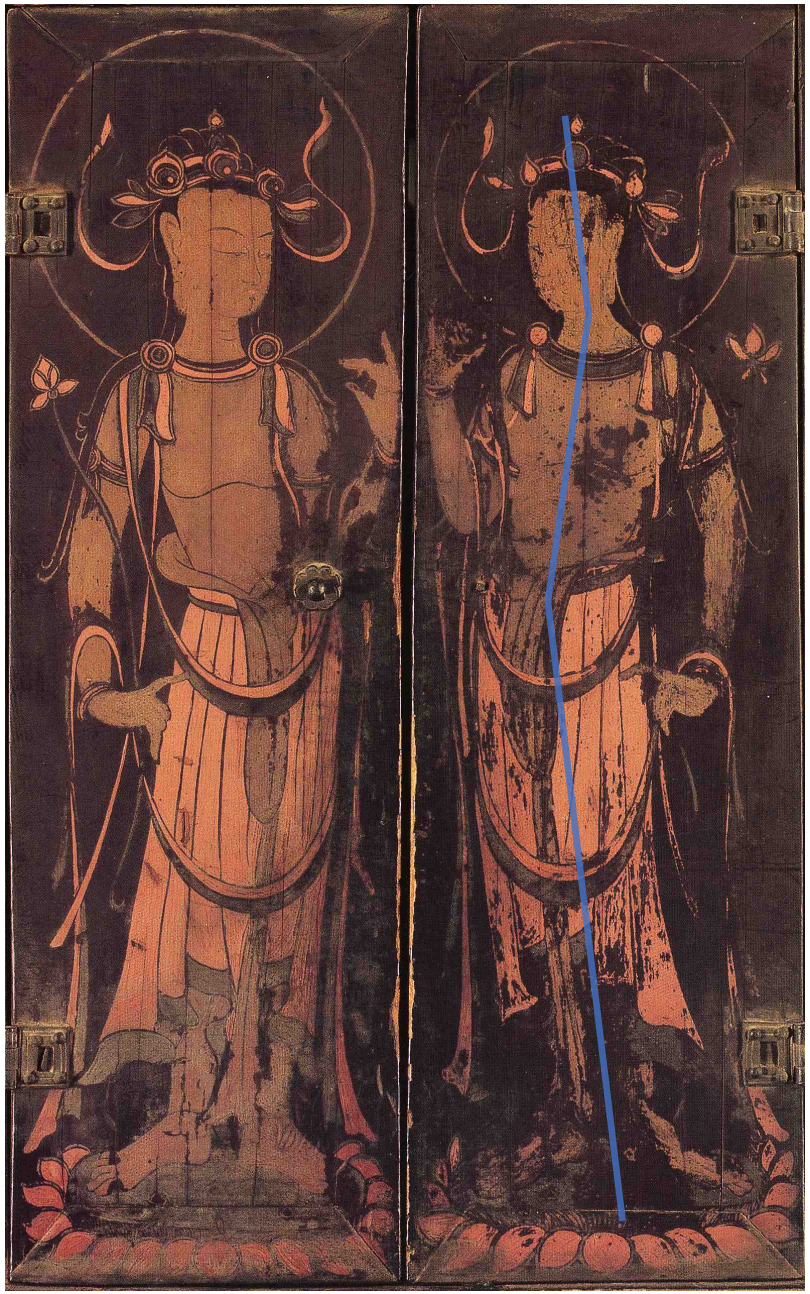
穏やかな身体の三曲法

（右図で青線の折れ曲りの角度が浅く、平たいSの形になっている）

※三曲法とは……

頭部・上半身・下半身をS字状に曲げて、動きをつくる表現。

インド以来の手法で、敦煌壁画では、北魏のものが屈曲が強く、隋の頃から穏やかになる。



六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

【隋の菩薩像と比較してみると……】

1．敦煌第276窟　文殊像

四角い面長の顔
細身の体躯
足元の蓮華座の形

などに共通点が見られる。

中国石窟敦煌莫高窟1~5（平凡社）
敦煌文物研究所、1992

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

2．敦煌第278窟　菩薩像

細身の体躯
宝珠形の三面宝冠
冠帯

などが共通する。

右側の菩薩は、顔に丸味を帯び、
次代の唐風が現れ始めている。

隋風が強い

顔・体に唐風の丸味が萌芽する

中国石窟敦煌莫高窟1~5（平凡社）
敦煌文物研究所、1992

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001

【続いて、宮殿部の背後にまわって、背面に描かれた「釈迦浄土図」（あるいは「霊鷲山浄土図」）をみてゆきます。】

②玉虫厨子の絵画

（３）宮殿部　背面
釈迦浄土図
（霊鷲山浄土図）

C字形に反った岩を重ねた山岳表現に特色

釈迦の住所である霊鷲山（りょうじゅせん）を描いたものとされる。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

三峰に分かれる山頂に、宝塔が並ぶ。

宝塔の中に如来を描く

山頂の形は、霊鷲山という地名を意識して、鷲の頭のような形をしている。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

鷲頭風の山岳表現

②玉虫厨子の絵画

山腹には、坐禅修行をする四人の比丘が見られる。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

【主題の問題について】

石田尚豊氏は、宮殿部背面の図像は、「法華経」を典拠とするという説を提案されている。

※宮殿部背面に描かれた霊鷲山は、釈迦が「法華経」を説いた場所とされており、「法華経」所説との関連が想定可能である。

石田尚豊『聖徳太子と玉虫厨子』（東京美術、1998年1月）

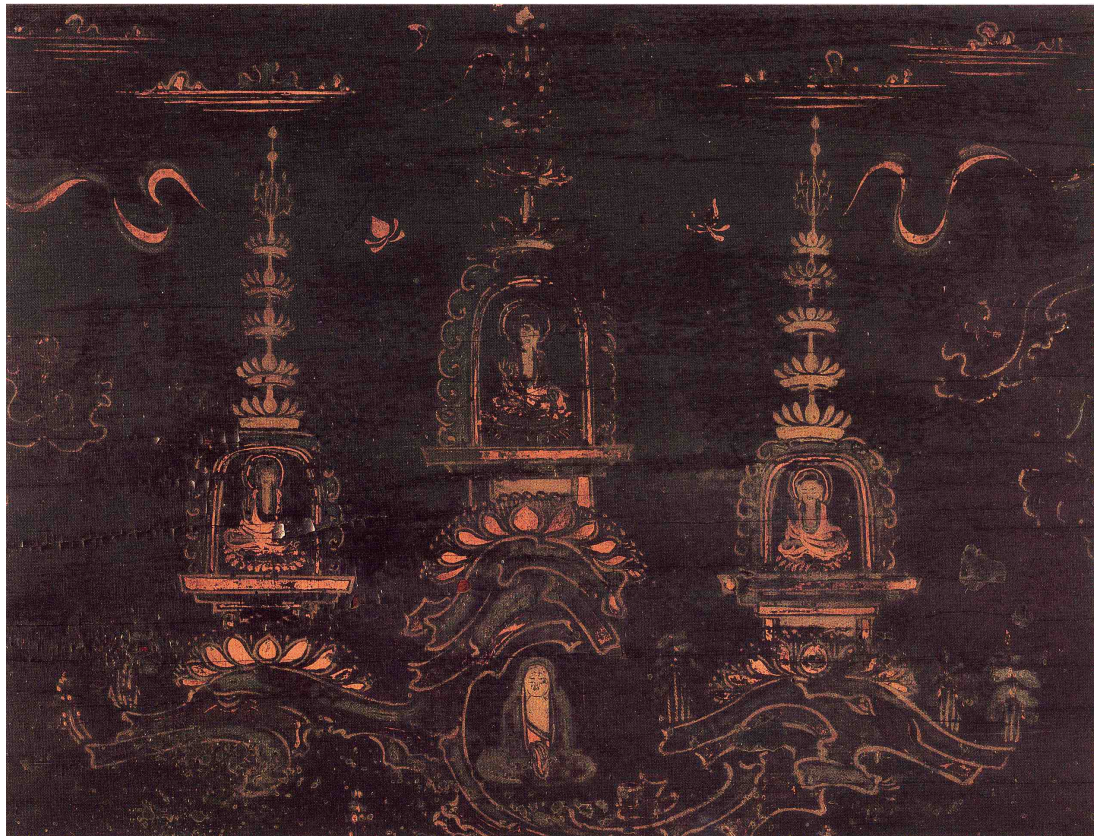
②玉虫厨子の絵画

石田説では、霊鷲山中の四人の僧は、「法華経」安楽行品（あんらくぎょうほん）に基づく、四つの安楽行を実践する初心の菩薩を描いているとする。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

同様に、山上の三つの塔は、「法華経」法師品（ほっしぼん）に基づき、法華経が正しく実践されている場所に出現する如来の七宝塔であるとされている。

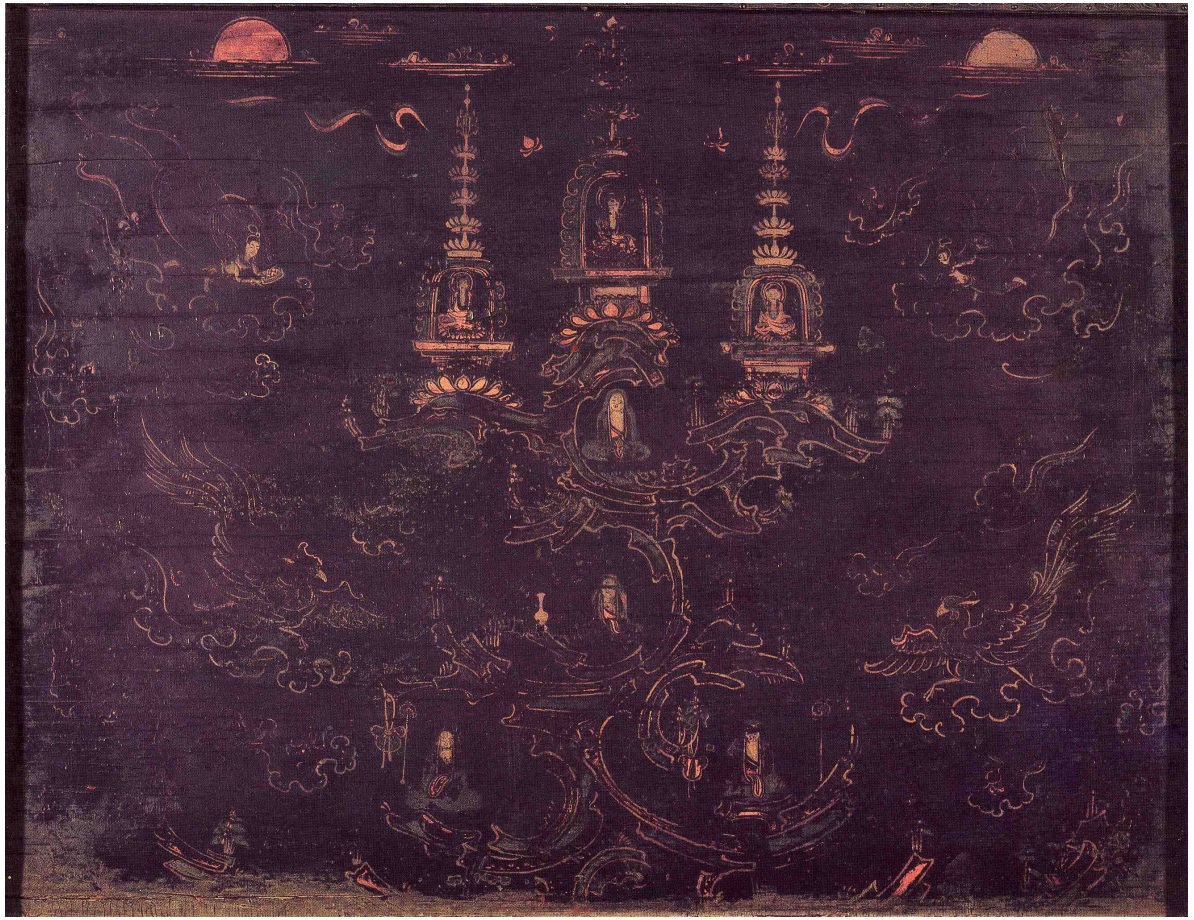


六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

全体として、宮殿部背面の図は、「法華経」を背景として、正しい修行の実践が行われている場のイメージを形成している。

また、初心の菩薩が修行を通じて山頂の如来に到達する到彼岸（とうひがん）のイメージともなっている。



六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

【次に、表現の特色について】

この、宮殿部背面の「釈迦浄土図」には、古い表現要素と
新しい表現要素が混在している点に特色が見られる。

②玉虫厨子の絵画

【古い要素～山岳表現】

骨片状の岩（碣石）を積み重ねて、茸形または傘形の山を描く山岳表現は、後漢～六朝頃の漆絵や画像石に現れるもので、大変古い描き方。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

【骨片状の岩を表現する先例　※次頁の図版を参照】

1．楽浪郡出土
　後漢の永平十二年（69）銘漆案　西王母図
※案～机やお膳のこと。

2．後漢末期
　四川省出土　石刻　仙人六博図

②玉虫厨子の絵画

図版削除

後漢・永平十二年（69）銘漆案　西王母図

図版削除

後漢末期　四川省出土　石刻　仙人六博図

いずれも、骨片状の岩を積み重ねて、茸状・傘状の山を作り、上面のテーブルに仙人が坐る形式をとっている。

②玉虫厨子の絵画

図版削除

「玉虫厨子」須弥座背面の須弥山図では、茸状の山が三段に重なる形。
各段のテーブル部分には、四天王や帝釈天が住む楼閣が配置される。

図版削除

図版削除

②玉虫厨子の絵画

ついでながら、傘形・茸形の山が聖域を表現する伝統は、長く続く。

右図は、14世紀・元時代の正悟筆「白衣観音図」だが、こちらも、海中に茸形の岩が伸び、上面に聖者としての観音が坐る図像となっている。

正悟
「白衣観音図」
（京都国立博物館）

https://artsandculture.google.com/asset/白衣観音図-正悟筆%E3%80%80雲外雲岫賛/ggFC-jDwMDjnSw?hl=ja　2022.11.25

②玉虫厨子の絵画

【新しい要素～飛天表現】

中国の飛天表現では、

天蓮華→変化生→化生→天人

と蓮華から徐々に天人へと変化していく姿が描かれるが、

「玉虫厨子」では、天蓮華と天人しか描かれない。

途中の中間的生命体は見られない。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画（岩波書店）
奈良六大寺大観刊行会、2001

②玉虫厨子の絵画

敦煌壁画では、中間的生命体が完全に見られなくなるのは、初唐の時期。

従って、「玉虫厨子」は隋から初唐にかけての中国の絵画表現を摂取している側面もある。

敦煌285窟（西魏・6世紀半）

中間的生命体
雲気が人のような形に変化しつつある

世界美術大全集　東洋編３　三国・南北朝（小学館）曽布川寛・岡田健、2000

②玉虫厨子の絵画

骨片形の岩を用いた独特の描き方は、特に神仙の暮らす霊山に用いられる。

釈迦の住む霊鷲山を霊山として表現するために、意図的に古い山岳表現を採用した可能性が考えられる。

六大寺大観　法隆寺５建築・工芸・絵画 （岩波書店）奈良六大寺大観刊行会、2001

今回の講義はここまでです。
次回は、下段に移り、須弥座の絵画表現を学びます。